

昭和十四年九月

思想彙報

第二十號

注意取扱

No. 33

秘

高等法院檢察局思想部

咸鏡南道國境地帶思想淨化工作概況

一、所謂惠山事件の概要

二、思想惡化の沿革

三、思想淨化工作の準備

四、思想淨化工作の具體的實行

五、思想淨化工作の將來の見透

第一、所謂惠山事件の概要

所謂惠山事件（中國共產黨の鮮内抗日人民戰線結成並支那事變後方擾亂事件）の内容に付ては既に思想彙報第十四號及第十八號に於て詳記したところであるが、咸鏡南道國境地帶思想淨化工作の概況を語る前提として必要な限度に於て更に之を簡單に要約して置くことにする。

所謂惠山事件はコミンテルンの人民戰線運動に關する昭和十年第七回大會の新テーゼに基く運動の一つの顯れであり中國共產黨が朝鮮に迄その魔手を伸し鮮内に抗日人民戰線の細胞を組織し我が後方を擾亂して事變を有利に導かんとしたものであつて、その點に於て頗る注目すべき特異の事件であつた。中國共產黨は昭和三年中既に滿洲奉天を中心とし

て満洲省委の組織を確立しその下に南滿、東滿、北滿の各特委を結成して活潑な活動を開始したのであるが、昭和五年中に滿洲朝鮮人共產主義者を使喚して斯の有名な間島共產黨大暴動事件を惹起せしめて之等を全部自己の掌中に収め、更に滿洲事變勃發後昭和八年中には従来の紅軍を改編して楊靖宇を總司令とする東北人民革命軍を編成して之を領導し、武裝暴動の機を窺つてゐたのである。偶々昭和十年七月のコミンテルン第七回世界大會に於て決議された人民戦線の新運動方針に基き、中國共產黨は抗日人民戦線の結成並朝鮮共產黨の結成に至る迄の指導と管理を委任指令せられたので、従來中國全土に波及してゐた各派の抗日救國運動の潮流及滿洲國內に於る反滿抗日思潮並に朝鮮民衆の抱持する民族獨立意識を巧みに利用し、共產黨指導の下に東亞に於ける抗日運動を人民戦線に統一せんことを圖り、同年八月有名な所謂八、一宣言を發して各方面に之を呼び掛けた。在滿黨も此の新策略に依り昭和十一年一月前記東北人民革命軍を主體として「過去一切の舊仇宿怨を放棄し全員救國旗幟の下に團結す」とのスローガンの下に舊東北義勇軍及職業匪團、鮮人匪團等を聯合せしめ中國の東北失地回復、朝鮮の獨立並にその共產化を窺の目的とする東北抗日聯軍を組織せしめて之をその領導下に置き、軍を三路、九軍、十八師に分ち之に優秀黨員を政治委員として配置してその政治的活動を指導せしむることになつた。當時前記の滿洲省委はコミンテルンの指令に依り既に解體せられ、魏極民を委員とする獨立の南滿省委が組織せられ直接在モスクワコミンテルン中共代表王明一派の指導下に導入つてゐたのであるが、更に右南滿省委の下に東滿特委が組織せられ、魏極民指導下に在つて、魏民生一派が委員として東北抗日聯軍第一路第二軍の政治活動を領導することになつたのである。咸南國境地帶鴨綠江對岸に蟠踞する所謂金日成一派と稱する匪團は同軍第一路第二軍第六師であつて、金日成を師長とし魏民生を政治委員とする鮮滿人混合の武裝匪團である。(金日成の身許に付ては種

々の説があるが本名金成柱當二十九年平安南道大同郡古坪面南里の出身で幼時實父母に伴はれ間島方面に移住し同地方に於て成人し匪團に投じた鮮人であると云ふのが最も確實であつて現にその實母は生存してゐる由である。)昭和十一年五月には在滿朝鮮獨立運動者吳成倫等に依て抗日聯軍の外廓的團體として之と相提携して朝鮮の獨立を達成すべき目的を以て在滿韓人祖國光復會が組織せられ、之亦結局中國共產黨の領導下に掌握せらるることになつた。斯様に體制を整備した東北抗日聯軍に於ては金日成を首領とする第二軍第六師を中心として滿洲國通化省殊に同省長白縣方面に政治工作員を派遣して在滿移住鮮農を獲得して韓人祖國光復會の下部組織及その外廓團體たる各種反日グループの結成に務めた外、鮮内にもその魔手を伸し同様の暗躍を開始した處、昭和十二年七月支那事變勃發するや好機到れりとなし盛んに政治工作員を鮮内に潜入せしめ各種反日グループ及生産游撃隊の結成に務め、武裝蜂起に因る我が後方擾亂を企圖し、我が國をして敗戦に導き、一舉に革命の目的を達成せんと狂奔するに至つたのである。政治工作員の活動は咸南國境地帯のみならず咸興、興南、元山等の平地工業地帯に迄及び、平安北道、咸鏡北道方面にもその工作が進められてゐた形跡がある。鮮内に於ける活動の中心人物は咸鏡北道吉州出身朴達こと朴文湘當三十年であつて、同人は昭和六年頃から左翼運動に従事してゐたのであるが、昭和十一年三月頃から咸南甲山郡雲興面に於て同志朴金結等と共に秘密結社を組織し朝鮮の獨立及共產化の目的を以て運動を展開せんとしたが、適當なる指導者のない爲意の如くならず苦慮し、結局金日成と連絡を執り同人の指導下に於て運動すべく特機中、偶々同年十二月下旬頃金日成部隊に屬する中共黨員第六師組織科長權永壁及同師滿鮮連絡責任李東石等と連絡することを得、その紹介に依り昭和十二年一月滿地長白縣十九道溝に於て金日成と會見し、同人より抗日人民戦線結成の必要を力説せられ東北抗日聯軍と提携して鮮内に於る抗日人民戦線